

# 総務委員会資料

## 所管事務の調査（報告）

### キングスカイフロントの拠点マネジメントの 構築について

資料 1 キングスカイフロントの拠点マネジメントの構築

資料 2 殿町国際戦略拠点（キングスカイフロント）の状況

参考資料 1 「世界に誇る地域発研究開発・実証拠点（リサーチ  
コンプレックス）推進プログラム」制度概要

参考資料 2 「世界に誇る地域発研究開発・実証拠点（リサーチ  
コンプレックス）推進プログラム」採択拠点の決定につ  
いて（科学技術振興機構 発表資料）

平成27年12月9日

総合企画局

## 1 拠点形成の状況

キングスカイフロントにおいては、超高齢社会の課題解決への貢献と日本経済の牽引を目指し、成長産業であるライフサイエンス分野における研究開発拠点の形成に取り組んできた。

- ライフサイエンス分野の国際戦略拠点形成にふさわしい、先端的な研究開発に取り組む企業・研究機関等を立地誘導し、集積が図られている。
- 国際戦略総合特区や国家戦略特区に指定され、規制緩和や税、財政、金融上の支援措置を活用し、拠点形成を進めてきた。
- 平成27年度においては、4月に、オープンイノベーションで研究開発を行うナノ医療イノベーションセンター（iCONM）が運営を開始し、6月に、ペプチドリーム株式会社の進出が決定した。

（資料2「殿町国際戦略拠点（キングスカイフロント）の状況」参照）

## 2 取組の方向性

キングスカイフロントについては、企業・研究機関等の集積が図られており、このことを踏まえ、次の項目を重点的に取り組み、拠点価値の一層の向上を図る。

### (1) 国際戦略拠点の形成に向けた誘致促進

キングスカイフロントにおける更なる企業、研究機関等の誘致を推進

### (2) 特区制度を活用した事業展開

規制緩和や税、財政、金融上の支援措置を活用し、企業等のプロジェクトを支援

### (3) 持続的なエリアマネジメント

#### ア 民間主導のマネジメント

産学官連携による医工連携マッチングの推進など研究開発成果の事業化の促進、知財、起業家支援等に関するコーディネート機能の導入、資金調達機能の確立 など

#### イ 次世代を担う研究者の創出

人材育成機能の導入など、次世代を担う若手研究者等が集まる仕組みの構築

### (4) キングスカイフロントの取組を市域に波及させる取組

新川崎地区等の殿町以外の企業・研究機関等との連携強化

### (5) 広域的連携によるイノベーションの創出・新産業の創造

大田区等との医工連携や、羽田空港周辺・京浜臨海部の各拠点との連携などの仕組みを構築

## 3 文部科学省「世界に誇る地域発研究開発・実証拠点（リサーチコンプレックス）推進プログラム」の活用

左頁2（3）～（5）の重点取組項目に対応するため、文部科学省の支援策を有効活用する。

### (1) プログラムの概要

#### ア 目的

「地域に集積する産学官等が連携し、異分野融合による最先端研究開発、成果の事業化、人材育成を一体的かつ統合的に展開する複合型イノベーション推進拠点（リサーチコンプレックス）」の形成に対して支援を行う。特定の研究ではなく、研究拠点としてのまちづくり機能の強化を図るため、次の取組を支援対象とする。

- 異分野融合共同研究開発
- 事業化支援
- 最先端研究設備の共同利用
- 人材育成・共同カリキュラム
- リサーチコンプレックスの推進体制強化

#### イ 支援期間

5年度（平成27年度～31年度）

### (2) 経過

平成27年 7月23日～9月15日 公募

平成27年11月26日 FS拠点に選定

※FS（フィージビリティスタディ）拠点…リサーチコンプレックス構築に向けて、モデル事業の実施や、情報発信を行うとともに、計画の実現可能性などについて検証し、計画や戦略の具体化・修正などを行う。来年度末までに検証後、採択可否が判断される。

### (3) 提案概要

#### ア 拠点名称

「世界に誇る社会システムと技術の革新で新産業を創る Wellbeing Research Campus」  
 （※人々のより魅力的な生き方（Wellbeing）の実現に向け、キングスカイフロントからより良い治療や健康、住まい方等を支える製品やサービスの創出を目指す提案。）

#### イ 提案主体

- 中核機関：慶應義塾大学
- 提案機関：川崎市、神奈川県、横浜市、大田区、  
 東京大学、東京工業大学、横浜市立大学、  
 富士フイルム株式会社、CYBERDYNE株式会社
- 参画機関：理化学研究所、横浜国立大学、ヤマトロジスティクス株式会社、  
 味の素株式会社、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社、  
 株式会社ケイエスピー、神奈川科学技術アカデミー、  
 川崎市産業振興財団、大田区産業振興協会

#### ウ 対象エリア

キングスカイフロント周辺地区及び羽田空港跡地地区

\*当面キングスカイフロントを中心に実施

## エ 提案内容

- 慶應義塾大学が中核機関となり、本市をはじめキングスカイフロント及びその周辺に立地する企業、研究機関、東京大学等の大学、近隣自治体等との産学官連携により、

- ①医療・ライフサイエンス分野を中心とするデータサイエンス・ものづくり等の融合、異分野の優れた研究の促進
- ②大学間連携カリキュラムによる起業家やデータサイエンティスト等の人材育成
- ③研究成果の事業化支援
- ④上記①～③を横断的、効果的に実施するための統合データベースを構築・活用
- ⑤リサーチコンプレックス推進体制の整備

等を一体的に事業実施する。

- イノベーションによる成果をデータにより捕捉、分析、評価し、これらを活用して新たなイノベーション創出につなげる統合的データサイエンス研究を基盤技術とする。
- 慶應義塾大学は、中核機関として、本拠点のビジョンや計画の策定・実施、マネジメント体制の強化等を通じて拠点運営や参画機関の全体調整を行う。

## (4) 目指す成果

- キングスカイフロント周辺地区が中心となり、リサーチコンプレックスプログラムの取組を進める中で、慶應義塾大学が中核となり、異分野融合研究の実施や研究成果の事業化の促進、人材育成機能の導入、さらには、拠点の持続的な成長・発展につなげる推進体制の構築に取り組み、日本経済を牽引する世界レベルのイノベーション創出拠点の形成を目指す。

## ア 人材集積

- 大学間連携カリキュラムによるデータサイエンティスト等の若手研究人材を輩出
- 世界の研究者等が集積する学術・研究会議、マッチング交流等の開催

## イ 産業集積

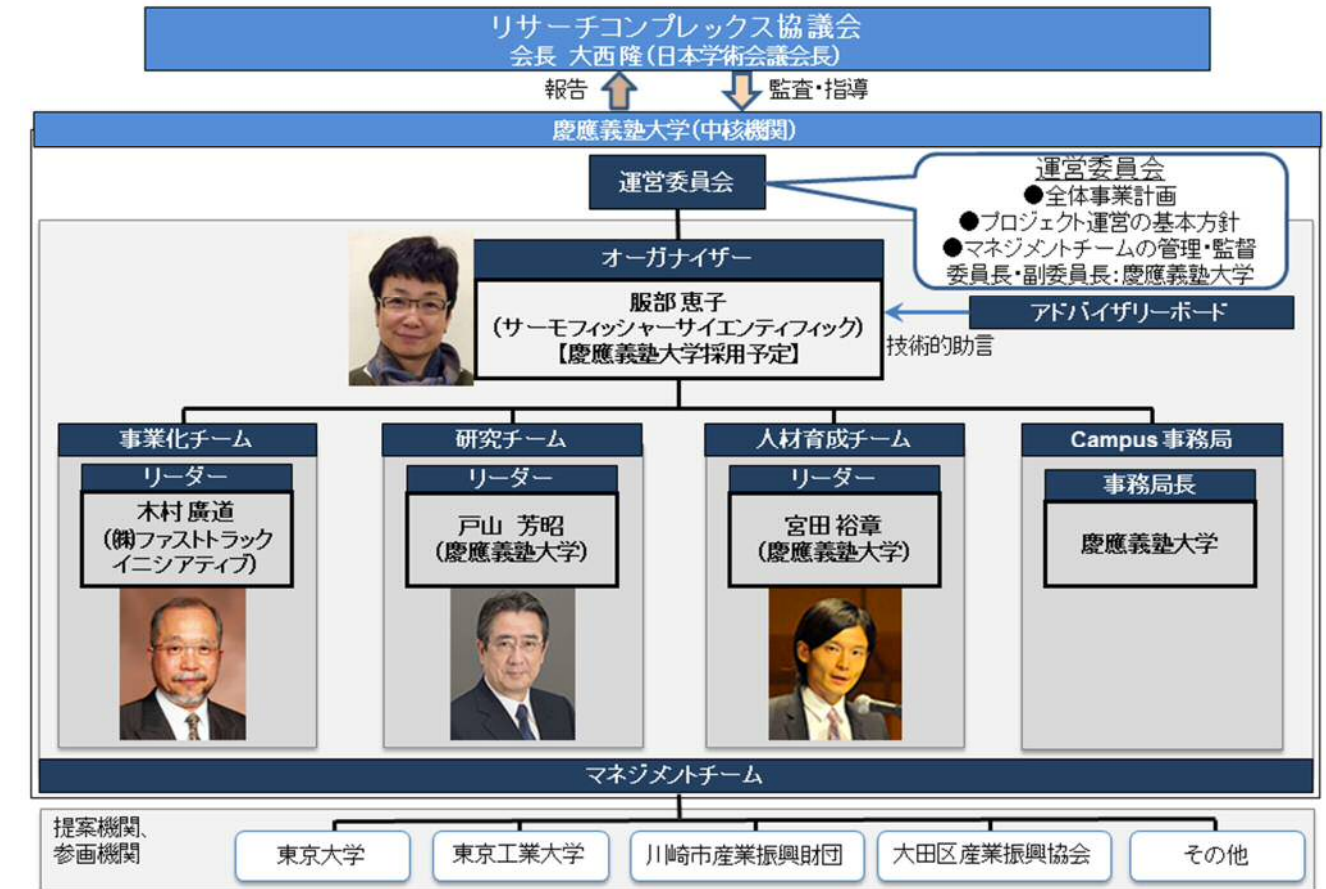
- 統合的データサイエンスを活用した異分野融合研究開発やイノベーションの実現を通じて、健康科学・融合学術分野等で新産業・新事業を創出
- 人・機械・情報系の融合複合技術であるサイバニクス技術による最先端の福祉・医療機器ロボット開発などの実用化を図り、関連ベンチャー企業を集積
- 最先端研究開発シーズと、川崎市の高度なものづくり技術を融合した製品群の創出

## ウ 市内外の拠点との連携による波及

- 研究成果の還元に向けた事業化の促進
- 重要連携拠点にも位置づけている、新川崎地区等の殿町以外の企業・研究機関等との連携強化によるイノベーションの創出、新産業の創造

## (5) 推進体制

- 中核機関内にマネジメントチームを組成
- 参画機関を構成員とした「リサーチコンプレックス協議会（仮称）」の設置  
会長：大西隆（日本学術会議会長）



## 4 今後の取組

平成27年11月26日にFS（フィージビリティスタディ）拠点に選定された結果を踏まえ、今後、次の取組を行う。


平成27年度

- 慶應義塾大学が、拠点事務局を、川崎生命科学・環境研究センター（LiSE）1階に設置予定。
- FS拠点としての事業計画を策定
- 計画に基づき、モデル事業を実施
- 中核機関を中心としたキングスカイフロント周辺地区における人材育成の実施体制の構築に着手
- 上記の取組にあたり、川崎市と慶應義塾大学がリサーチコンプレックスの推進に関する協定を締結

平成28年度

- FS拠点としてモデル事業を実施
- 計画の実現可能性や事業実施の検証を経て、平成28年度内に採択を目指す。

# 殿町国際戦略拠点（キングスカイフロント）の状況

 : 進出決定 及び 整備中

 : 運営開始済

資料 2



**実中研**  
再生医療・新薬開発センター  
(0.6ha) H23年7月運営開始

**川崎生命科学・環境研究センター (LiSE)**  
(0.7ha)  
H25年3月運営開始

**ナノ医療イノベーションセンター**  
(0.8ha) H27年4月運営開始

**産業交流施設イメージ**  
H32年度竣工予定

**第2ゾーン (17ha)**  
＜うち5ha＞  
○宿泊施設 ○複合業務施設

**公益財団法人 日本アイソトープ協会**  
(1.0ha) H28年度竣工予定

**ジョンソン・エンド・ジョンソン**  
東京サイエンスセンター  
(0.3ha) H26年8月運営開始

**神奈川県ライフイノベーションセンター (仮称)**  
(事業者: 大和ハウス工業)  
(0.8ha) H28年度運営開始予定

**ペプチドリーム**  
(0.5ha) H29年6月竣工予定

**大和ハウス工業 (4.6ha)**  
＞健康・医療・福祉等の研究開発業務機能  
＞交流、生活利便・リフレッシュ機能

**富士フィルム RI ファーマ**  
(0.3ha) H28年度竣工予定

**クリエートメディック**  
(0.3ha) H28年度竣工予定

**全日本空輸 (3.0ha)**  
＞ケータリング棟 H23年事業開始  
＞管理棟 H26年事業開始

**ヨドバシカメラ (14.9ha)**  
アソシエーター H17年事業開始  
※既存施設の隣地に増設計画  
H28年竣工予定 (約18万㎡増床)

**国立医薬品食品衛生研究所**  
(2.7ha) H28年度竣工予定

**殿町A地区 グランドデザイン**

【開発計画】

- ◆ホテル棟  
用途: カフェレストラン  
宿泊施設 他  
延床面積: 約7,000㎡  
建物稼働: H29年度中
- ◆II棟  
用途: ラボ  
先端医療クリニック  
延床面積: 約10,000㎡  
建物稼働: H29年春
- ◆I棟  
用途: ラボ・コンビニ  
延床面積: 約3,000㎡  
建物稼働: H29年度中

研究開発機能を順次誘致

整備スケジュール	2015年度(平成27年度)	2016年度(平成28年度)	2017年度(平成29年度)以降
国立医薬品食品衛生研究所	建設工事		完成 → 事業実施
日本アイソトープ協会	建設工事		完成 → 事業実施
神奈川県ライフイノベーションセンター(仮称)	建設工事 → 完成	事業実施	
クリエートメディック	設計 → 建設工事	完成 → 事業実施	
富士フィルムRIファーマ	設計 → 建設工事	完成 → 事業実施	
大和ハウス工業 (A地区: 第1期分)	設計	建設工事	順次完成 → 事業実施

「世界に誇る地域発研究開発・実証拠点

(リサーチコンプレックス) 推進プログラム」 制度概要

(1) 公募の概要

ア) 公募機関

国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)  
(文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課)

イ) 目的

世界に誇るイノベーション創出を目指し、地域に集積する産・学・官と金融機関が共同でビジョンを掲げ、国内外の異分野融合による最先端の研究開発、成果の事業化、人材育成を一体的かつ統合的に展開するための複合型イノベーション推進基盤としてのリサーチコンプレックスを成長・発展させ、地方創生にも資することを目的とする。

ウ) 支援規模、期間、拠点数

支援規模：拠点あたり 5～7 億円程度 / 年度  
期 間：5 年度 (H27-H31、支援は平成27年12月開始)  
採択予定拠点数：2 拠点程度

エ) 支援内容 (JST が採択後、中核機関と委託研究開発契約を締結)

- ① 異分野融合共同研究開発
- ② 事業化支援
- ③ 最先端研究設備の共同利用
- ④ 人材育成・共同カリキュラム
- ⑤ リサーチコンプレックスの推進体制強化

オ) 提案者 (申請者：中核機関 / 自治体等と連名で提案)

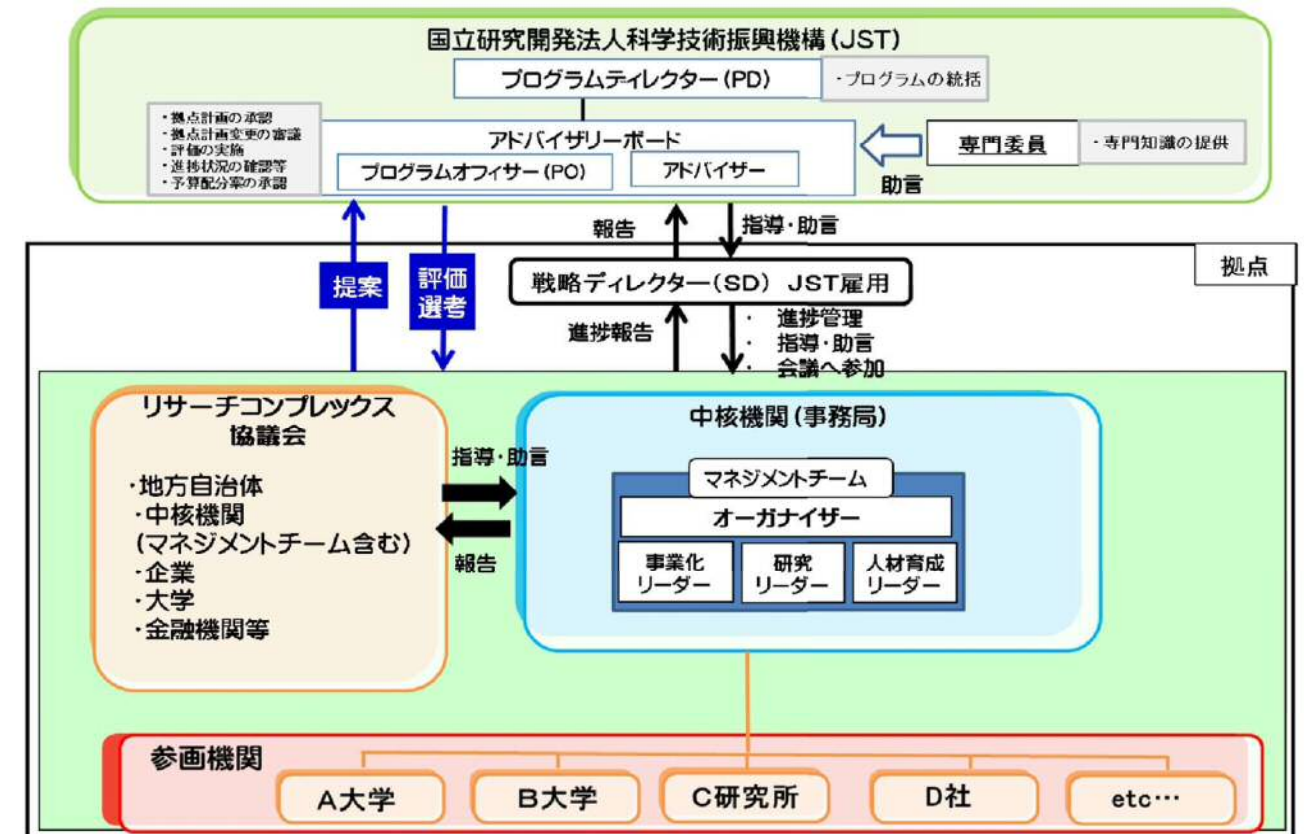
- ・ 中核機関 (大学、公的研究機関、自治体が設立・運営に深く関与する法人)
- ・ 都道府県又は政令指定都市
- ・ 他の法人 (複数の大学等及び複数の企業、本部又は研究組織が既に集積或いは近々集する法人)

※「中核機関」とは、本プログラムにおけるリサーチコンプレックスの成長・発展を推進する中心的な役割を果たし、自治体とともにビジョンを策定する。また、ビジョン実現のための計画策定及び実施、地域負担のとりまとめ、マネジメント体制の強化等を通じてリサーチコンプレックスを運営し、参画する各機関の全体調整を実施する事務局機能を有した機関のことです。

カ) 公募スケジュール、選定

公募期間：平成27年7月23日 (木)～9月15日 (火)  
審査結果：平成27年11月26日

キ) 実施体制図



(制度概念図)

**世界に誇る地域発研究開発・実証拠点 (リサーチコンプレックス) 推進プログラム事業計画**

**【目標】**世界に誇るイノベーション創出を目指し、地域に集積する産・学・官・金のプレイヤーが、国内外の異分野融合による最先端の研究開発、成果の事業化、人材育成を一体的かつ統合的に展開するための複合型イノベーション推進基盤を形成し、地方創生にも資する。

**【実施方法】**

- ① 研究開発、事業化、人材育成を実施するにあたり、各地域の優位性ある資源(人材、技術シーズ、先端研究設備、実証フィールド等)を、統合的に運用するとともに、不足する資源は地域外からも導入する。
- ② これらの資源を結集し、かつ有効に活用するためのマネジメントシステムを構築・運用することで、地域の優位性を最大限に活かした新事業や新産業及び雇用の創出を行う。

**【支援内容】**

コンプレックス(一定の範囲の物理的空間において、大学、研究機関、企業等がそれぞれの活動を融合させ、世界の注目を集める研究開発、成果の事業化、人材育成を一体的に実施するための世界的にも優れた研究インフラ、組織、その他の資源の集積)内でプレイヤー間のインタラクションを活性化させ、コンプレックス全体を成長させる活動のための支援を行う。

- ◆ 支援規模・期間：5～7億円程度(間接経費含む) / 拠点・年、5年度
- ◆ 採択予定拠点数：2拠点程度

※既に形成されている産・学・官のチームが計画・実施している研究等に係る経費や施設、大型設備の整備に係る経費は支援対象から除く(センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム、先端融合領域イノベーション創出拠点形成プログラム、地域イノベーション戦略支援プログラム等と重複のないこと)。

この図は、D大学(国内外)、E大学(国内)、企業、自治体、A大学(構内・学内)、B大学(構内・学内)、C研究所(シミュレーションツール)が互いに連携し、最先端的研究開発の集積とプレイヤー間のインタラクションを促進している様子を示しています。

・成果の社会実装・地域産業の発展についてのビジョンを基に、必要な要素技術を特定。  
・地域内外の研究開発力を拠点に統合し、研究開発→実証→実用化へつなげる。

平成27年11月26日

東京都千代田区四番町5番地3  
 科学技術振興機構 (JST)  
 Tel: 03-5214-8404 (広報課)  
 URL: <http://www.jst.go.jp>

「リサーチコンプレックス推進プログラム」審査結果

「世界に誇る地域発研究開発・実証拠点 (リサーチコンプレックス) 推進プログラム」採択拠点の決定について

JST (理事長 濱口 道成) は、平成27年度の新規事業である「リサーチコンプレックス推進プログラム」における採択拠点1件およびFS (フィージビリティスタディ) 注1 拠点3件を決定しました (別紙1)。

リサーチコンプレックスとは、地域において集積している研究機関、企業、大学などがそれぞれの活動を融合させ、世界の注目を集める、異分野融合による最先端の研究開発、成果の事業化、人材育成を一体的・統合的に展開するための複合型イノベーション推進基盤です。本プログラムでは、5年後、10年後からその先に実現すべき地域の姿や社会的価値をビジョンとして描き、その実現に向けたリサーチコンプレックスの取り組みを支援し、また、地方創生にも資することを目的としています。

本プログラムは、平成27年7月23日 (木) ~ 9月15日 (火) まで募集を実施し、10件の応募がありました。今回採択された拠点は、原則として5年度 (FSは来年度末までに検証後に採択可否を判断) の支援期間に地域内外の研究開発資源を統合的かつ有効に活用するためのマネジメントシステムを構築・運用することで、地域の優位性を最大限に活かした新事業や新産業、および雇用の創出を目指します。さらに、リサーチコンプレックスの成長・発展を通じて将来的に新たなプレイヤーを持続的に呼び込み発展する体制の構築を目標とします。

本プログラムの詳細については、下記ホームページを参照してください。  
 URL: <http://www.jst.go.jp/rc/index.html>

注1) FS (フィージビリティスタディ)

リサーチコンプレックス構築に向けた計画の実現可能性などについて検証し、計画や戦略の具体化・修正などを行います。

＜添付資料＞

- 別紙1: 「リサーチコンプレックス推進プログラム」 審査結果
- 別紙2: 「リサーチコンプレックス推進プログラム」 採択拠点の概要
- 参考1: 「リサーチコンプレックス推進プログラム」の概要
- 参考2: 「リサーチコンプレックス推進プログラム」アドバイザリーボードメンバー一覧

＜お問い合わせ先＞

科学技術振興機構 イノベーション拠点推進部 地域イノベーショングループ  
 〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's 五番町  
 大塚 進 (オオツカ ススム)、大嶋 則和 (オオシマ ノリカズ)  
 Tel: 03-6272-4732 Fax: 03-5214-8496  
 E-mail: [rc@jst.go.jp](mailto:rc@jst.go.jp)

＜採択拠点＞

課題 No.	リサーチコンプレックス名	都道府県又は政令指定都市名	中核機関名	備考
1	健康“生き生き” 羅針盤リサーチコンプレックス	兵庫県 神戸市	国立研究開発法人 理化学研究所	採択

＜FS拠点＞

課題 No.	都道府県又は政令指定都市名	中核機関名	FS選定理由
1	川崎市 神奈川県 横浜市	慶應義塾大学	川崎市殿町地区において、大学・研究機関や民間企業の研究拠点が集積しつつあり、リサーチコンプレックスとしてのポテンシャルが評価された。医療・ライフサイエンス関係の企業や研究機関が集積しつつある地域の強みを踏まえ、関係分野の世界の研究開発動向を調査・分析するとともに、中核機関を中心とした同地区における教育研究活動の実施体制を構築すべく、リサーチコンプレックス実現に向けた構想立案へのチャレンジを認める。
2	京都府	公益財団法人 関西文化学術 研究都市推進 機構	けいはんな中央エリアにおいて、民間の力により多くの企業の研究開発部門が集積しつつあり、リサーチコンプレックスとしてのポテンシャルが評価された。脳機能研究などの地域の強みを踏まえ、関係分野の世界の研究開発動向を調査・分析し、関係企業・研究機関を強力に巻き込んでいくマネジメント体制を構築すべく、リサーチコンプレックス実現に向けた構想立案へのチャレンジを認める。
3	北九州市	公益財団法人 北九州産業学 術推進機構	ゼロエミッションを目指した資源循環型社会への取り組みなど、ソーシャルイノベーションに関する地域の取り組み実績があり、北九州学術研究都市における大学などの集積についてリサーチコンプレックスとしてのポテンシャルが評価された。この強みを生かし、ソーシャルイノベーションの実証実験フィールドとしての世界的優位性を高めるための戦略を明らかにすべく、リサーチコンプレックス実現に向けた構想立案へのチャレンジを認める。